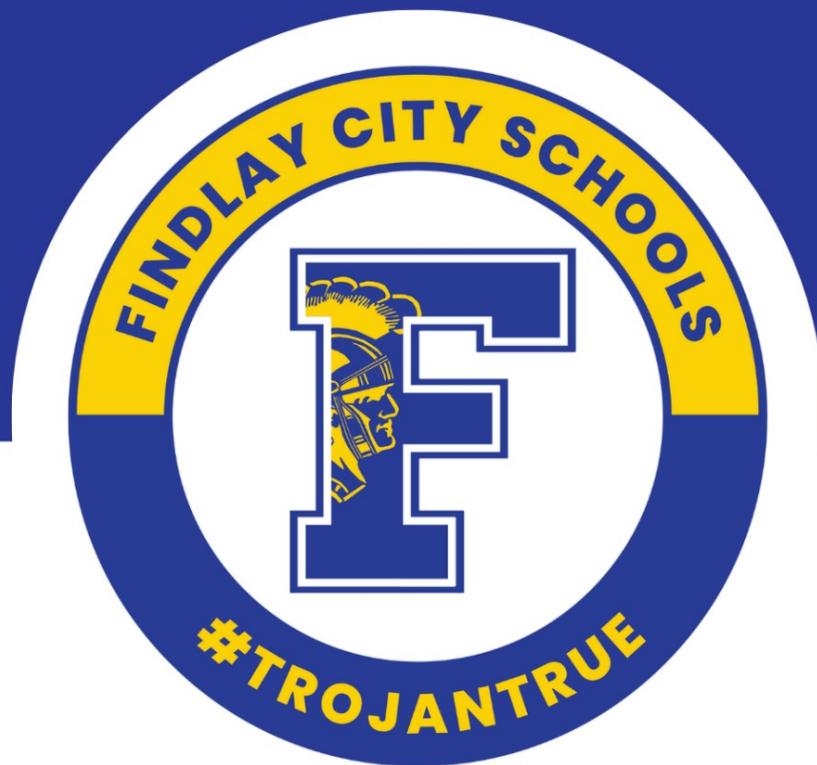


FINDLAY CITY SCHOOLS K-5
STUDENT
HANDBOOK



出席手順

オハイオ州の法律に従い、正当な理由がない限り、生徒は毎日時間通りに学校に来ることが求められます。保護者は、生徒が欠席する場合は学校に通知し、欠席の理由を伝えることが法律で義務付けられています。学区では、保護者が欠席当日の朝 9 時までに学校に連絡し、オフィスに電話してボイスメールを残すか、学校オフィスに電子メールで欠席を報告することを義務付けています。欠席当日の朝に家庭と学校の間で連絡が取れなかった場合、保護者は学校に戻ったらすぐに生徒に欠席の理由を説明したメモを渡す必要があります。そうでない場合、欠席は正当な理由なしの欠席として記録されます。

幼稚園から5年生までの1日の授業時間は6.08時間とみなされます。

遅刻

生徒が学校に遅刻したり、早く退校したりする場合、生徒の保護者は出席管理室で出欠の記録をとらなければなりません。度を越した遅刻は管理上の懲戒処分の対象となり、出席時間にカウントされます。生徒が学校に遅刻したり、早く退校したりする場合、生徒の出席記録に記録されます。遅刻/早退の必要性を記載した書類を欠席後 2 日以内に提出してください。

正当な理由のない欠席および無断欠席の手続き

1. 児童が正当な理由なく15時間以上欠席した場合、学校は児童とその親/保護者に書面で不登校の法的結果を通知し、児童を直ちに学校に出席させる責任があることを通知するものとする (ORC Sec. 3321.19)。
2. 学校は、保護者の出席を必要とする無断欠席が 21 時間以上ある児童および5年生から 12 年生の児童の保護者に、保護者教育プログラムに参加するよう通知するものとします。教育プログラムの目的は、児童の学校出席を強制するための保護者の関与を促すことです (ORC Sec. 3321.19)。
3. 学校は、正当な理由なく 25 時間以上欠席した児童とその保護者に対し、不登校の法的結果を文書で通知することができません。
4. 正当な理由なく欠席した場合、その子供は常習的不登校とみなされる。
30 時間以上連続して欠席する場合、1 学期に 42 時間以上、または 1 学期に 72 時間以上欠席する場合は、欠席免除が認められます。生徒が常習的な無断欠席者とみなされる場合、学区は欠席介入計画 (ORC Sec. 3321.19 および Sec. 3321.191) を実施し、裁判前の協議を要求することができます。
5. 不登校や寄付に関する苦情 (ORC Sec. 3321.191およびSec. 2151.27)を
ハンコック郡少年裁判所。

過度の無断欠席または正当な理由による欠席の手続き

生徒が1学期に 38 時間以上、または 1 学期に 65 時間以上、正当な理由による欠席または無断欠席した場合、出席管理責任者は保護者に書面で通知するものとします (ORC Sec. 3321.191)。この基準が満たされると、生徒は出席監視の対象となります(葬儀、大学訪問、OSSなどを除く)。

出席監視プログラムは、生徒の出席状況を綿密に監視し、欠席を最小限に抑え、生徒やその家族に支援を提供します。生徒は、欠席後 2 日以内に、名前、欠席理由、学校に欠席する日時を明記した、医療、カウンセリング、またはその他の公的機関 (保護者の書面によるメモを除く) からの文書による欠席許可書を提出する必要があります。病気の生徒は、看護師によって学校を休むこともできます。

生徒は、昨年度の出席記録に基づいて学年度の初めに出席監視の対象になるか、または現在の学年度中に、1学期に38時間以上、または1学期に65時間以上、正当な理由による欠席または無断欠席があった場合に出席監視の対象になることがあります。校長/副校長、出席ケース マネージャー、またはカウンセラーは、生徒と保護者/後見人と面談して、学校出席率を改善するための計画を立てることができます。学区に転入する生徒の出席は、出席監視と同じ基準を使用して審査されます。

理事会は、学区の出席管理責任者と協力して、過度に不登校の生徒に対しても積極的に追及します。

学生への薬の投与

学校での経口薬

例外的な状況下で、子供が学校時間中に経口薬（処方薬と市販薬の両方）を服用する必要があり、親/保護者が学校にいて薬を投与できない場合は、看護師または校長の指名者のみが、以下の規則に従って薬を投与します。

1. 親/保護者と医師の署名入りの書面による指示が必要となり、以下の情報を含めます: a. 子供の名前、住所、通っている学校、学年、b. 薬の名前、c. 薬の目的、d. 投与時間、e. 投与量、f. 起こりうる重篤な副作用、g. 投与開始日、h. 投与終了日、および、i. 無菌状態や保管を含む、薬の投与に関する特別な指示。
2. 看護師または校長の代理人は、次の対応を行います。a. 適切な学校職員に薬について通知する。b. 薬の投与の記録を保持する。c. 薬を鍵のかかるキャビネットに保管する。d. 使用しなかった薬を親または保護者にのみ返却する。
3. お子様の親/保護者は、お子様の健康状態の変化や投薬の変更があった場合は学校に通知する責任を負います。
4. 学区は、医薬品の投与の要請を拒否する裁量権を保持します。
5. この規則のコピーは、保護者の要請に応じて提供されます。
学校での投薬管理。

自転車自転車に

乗る生徒は、歩行者の権利を尊重しなければなりません。自転車で通学する生徒は、遊び場で降りて、駐輪場まで自転車を歩くか押して行く必要があります。

校内では自転車に乗ることはできません。自転車はすべて、設置されたラックに駐輪する必要があります。鍵をかけることをお勧めします。学校は自転車のセキュリティについて責任を負いません。

これらの安全手順に従わない生徒は、自転車で学校に通う権利を拒否されます。

誕生日

生徒は、原材料リスト付きの包装済みのお菓子を持ち込むことができます。食物アレルギーや食事制限と診断される生徒が増えています。お子様のクラスの先生にご相談ください。風船、花、ぬいぐるみなどは、授業時間中に生徒に届けられません。

バスポリシーバス

に乗車できるのは、乗車資格のある生徒のみです。徒歩で通学する生徒は、バスで通学する生徒と一緒に乗車することはできません。保護者から他の手配を依頼するメモが提出されない限り、バスで通学する生徒はバスで帰宅します。

生徒が割り当てられたバスをルート沿いの別のバス停で乗り降りしたい場合は、保護者からのメモを校長に提出して承認を得る必要があります。バスに乗車するには、許可書をバスの運転手に提示する必要があります。いかなる状況でも、書面による許可なしに、生徒がバスの割り当てを変更したり（割り当てられたバス以外のバスに乗車したり）、バス停の割り当てを変更したりすることは許可されません。保護者は、学校事務所にあるフォームに記入して、バスまたはバス停の割り当ての変更をリクエストできます。

バス規則以下の

規則は、学区が管理する交通機関における生徒の行動に関するもので、生徒、運転手、および道路上の他の運転手の安全と福祉を確保し、学校車両の安全と適切なメンテナンスを確保することを目的としています。

生徒は以下のことを行います。

1. バス停に近づくときは注意し、対向車に向かって左側を歩き、高速道路を渡る前に両方向の道路が空いていることを確認し、交通量の少ない場所で待機してください。
2. バスが時刻表通りに運行できるよう、バスの到着予定時刻より前にバス停に到着する。
3. 交通の無い場所で待機し、バス停では他人の生命、身体または財産を脅かすような行為は控えてください。
4. 指定された座席に座る（運転手は生徒に座席を割り当てる権利を有する）。
5. 他の生徒の邪魔をしたり混雑させたりせず、指定された席に直接行き、車両が走行している間は着席したままです。
6. 教室での行動、または管理者や輸送担当者によって定められたバスでの行動を遵守し、運転手の指示に迅速かつ丁寧に従います。
7. 車両を清潔に保ち、つまづく危険がないようにする。
8. 医療上の理由が必要な場合、または適切な付き添い人、学校管理者、または学校職員の監督下で学区が通常以外の移動を許可した場合を除き、バス内での飲食を控える。
9. 下品な言葉の使用や大声で話したり笑ったりするのは控えてください（不必要な混乱は運転手の注意をそらし、重大な事故につながる可能性があります）。
10. 座席に座ったまま、通路や出口を空け、頭、腕、手を常に車内に保ち、車内や車外に物を投げたり渡したりしないでください。
11. 他の生徒や運転手に対して礼儀正しく接する。
12. 備品を自宅の貴重な家具と同じように扱う（学校の車両に損傷を与えることは固く禁じられています）。

13. 学生に処方薬が必要な場合を除いて、車内でニコチン製品を使用したり、車内でアルコールや薬物を所持したりしないでください。
14. 膝の上に載せられる物、または州法に従って車両内に保管できる物のみを車両に持ち込む。

生徒は車両が停止するまで座席に留まり、その後速やかに降車し、車両が去るまで指定された安全な場所で待機する必要があります。道路を横断して寮側の道路に渡らなければならない生徒は、運転手からの合図を待って、自分でも交通状況を確認した後、車両の前を横断する必要があります。

学生がこれらの規則に従わなかった場合、学区が管理する交通機関を利用する権利を失う可能性があります。

バス規律

理事会は、学区長または他の管理者に、最長 1 学年までの間、生徒の交通機関利用権を停止する権限を与えています。必要な唯一の正当な手続きは、バス利用停止の予定を生徒に通知し、停止が行われる前に管理者の前に出頭する機会を与えることです。管理者の決定は最終的なものです。

個々の生徒に規律上の問題が生じた場合は、次のガイドラインに従ってください。

1. 可能であれば、ドライバーが問題を解決する必要があります。
2. 運転手が問題を解決できない場合は、
輸送管理者。輸送管理者と運転手は、必要に応じて校長と協議します。懲戒処分は学校長によって課されます。
3. 上記の措置によって解決できない問題は、監督官に報告されます。

未就学児および障害のある生徒の交通機関の利用を停止するには、これらの手順の変更が必要になる可能性があり、適用されるすべての法定要件に準拠します。

(理事会ポリシー JFCC-R を参照)

学校の休校または遅延最新情報を入手し、すぐに最新情報を入手する

簡単な方法は、Remind アカウントが通知を受け取るように設定されていることを確認することです。アカウントがお子様に関連付けられていることを確認するには、pr@fcs.orgにご連絡ください。また、学区と学校の Facebook ページに「いいね！」を付け、学区の通信システムからアラートにサインアップしてください。学区の Web サイト www.findlaycityschools.org にアクセスすると、遅延や休校に関する情報や、学区の電子メール通知にサインアップできます。また、悪天候の間は、Findlay ラジオ局 (WFIN 1330 AM、WBVI 96.7 FM、WKXA 100.5 FM) を引き続き聴いて、休校や遅延に関する情報を入手することもできます。

授業が終わる前に休校になった場合は、ラジオでもアナウンスされます。保護者の方は、事前にこうした緊急事態に備えた計画を立ててください。学校の電話回線は、休校のアナウンス後、頻繁に混雑します。学校が休校になった場合、その日に校舎で予定されているすべての活動 (PTO ミーティング、スケート パーティー、Gray-Y バasketボールの練習、スカウト ミーティングなど) も自動的にキャンセルされます。

行動規範すべて

の市民が認識しているように、学校は合理的な規則と責任ある生徒なしでは効果的に運営できません。自己規律を実践し、自分の行動に責任を持つことは生徒の責任であると固く信じられています。しかし、この理想は必ずしも実現されていません。

気がついた。

規則違反や不正行為は段階的に対処されます。教室、校庭、カフェテリアで不正行為をした生徒に対する処分には、警告、保護者面談、居残り、カフェテリアや校庭の利用権の剥奪、校長への報告が含まれます。重大な違反行為については保護者に通知されます。繰り返し規則違反や重大な不正行為を校長に報告された生徒に対する処分には、教育委員会の方針に従った懲戒処分（JGD、JGDA、JGE、停学、緊急退学、退学）が含まれる場合があります。バスの規則に違反すると、乗車権が剥奪される場合があります。（ポリシー JFCC および JFCC-R を参照）。

保護者の皆さまには、学校での適切な行動に関するこのハンドブックに記載されている規則をお子様と一緒に確認していただくようお願いいたします。お子様の行動上の問題について連絡を受けた場合は、問題解決のためにご協力をお願いいたします。保護者の皆さまのご支援はいつでも歓迎いたします。ご協力いただくことで、お子様の学校生活を成功に導くことができます。

服装規定/生徒の身だしなみと外見保護者は、生徒を清潔できちんとし

た、適切な服装で学校に送り、良い学校生活を送れるようにする必要があります。服装は、子供が授業だけでなく体育や校庭の活動にも参加できるように快適なものでなければなりません。暖かい日にはショートパンツが許可されます。天候が許せばいつでも屋外で休憩をとるので、服装は天候に適したものでなければなりません。ジャケット、セーター、コート、ブーツ、帽子、手袋、ミトン、体育館シューズなどの衣類には、紛失防止のためにラベルを付けることが推奨されます。

学校では、生徒の気を散らしたり学習プロセスを妨害したりする不適切な服装は認められません。生徒は校舎内で帽子をかぶってはなりません。薬物、アルコール、タバコの広告や、容認できない行動や不快な言葉が書かれた服装は禁止されています。（生徒の行動規範を参照）腹部を露出した服、タンクトップ、スパゲッティ ストリング トップ、下に T シャツを着ていないメッシュ ジャージも禁止されています。安全上の理由から、ビーチサンダルやヒールやヒール ストラップのない履物は推奨されません。

適正手続きと控訴

（学校外停学、退学、退学）

校外停学、退学、緊急退学の適正手続きは、オハイオ州改正法典第 3313.66 条および JGD、JGDA、JGE、JGF、JGF-R、JEGA を含むすべての該当する理事会ポリシーに従います。校内での代替措置については、適正手続きによる保証はありません。停学期間は、停学が課された時点から 1 暦年を超えて延長することはできません。校外停学が課された場合、生徒は学校や課外活動に参加できず、担当校長の裁量により、授業の補習または部分的な単位取得が認められる場合があります。停学および退学は、正当な理由のない欠席とみなされます。学区は、州法に従い、幼稚園から 3 年生までの生徒に対して、州法で定義されている重大でない違反行為を理由に校外停学を科すことはありません。

特定の課外活動から生徒を停学にすることに関しては、改正法第 3313.664 条に規定されている以上の正当な手続きによる保証は暗黙的に規定されていません。教育長は、違反に対する他の懲戒処分とは別に、または代わりに、生徒が特定の課外活動またはすべての課外活動に参加することを禁止することができます。

この方針または問題の活動に適用されるその他の正式に公布された規則に違反した場合、体育局長、関連コーチ、またはディレクターは、他の懲戒処分とは別に、またはその代わりに、その者の責任範囲内にある特定の課外活動またはすべての課外活動を学生に対して禁止することができます。このような停学期間は、停学が課された時点から1暦年を超えて延長することはできません。校外停学が課された場合、学生は学校または課外活動に出席できず、担当校長の裁量により、授業の成果を単位または部分単位として補うことができます。

緊急医療フォーム

学年の初めに、各保護者は Final Forms を通じて緊急医療フォームに記入するよう求められます。この情報は緊急事態に必要です。フォームは毎年記入し、状況が変わった場合は更新する必要があります。

学年の初めに緊急医療フォームが記入されていない場合、生徒は校外学習に参加できません。

料金

学費は各学期の初め（8月/1月）に支払う必要がありますが、年間を通して支払うこともできます。学費の支払いについては、学校事務局にお問い合わせください。小切手は Findlay City Schools 宛にしてください。学費と学校給食費を同じ小切手で支払わないでください。学費は Findlay City Schools を通じてオンラインで支払うこともできます。

フィールドトリップ

学年を通して、さまざまな時期にクラスで校舎外への遠足が予定されます。お子様がそのような活動に参加するには、保護者の許可が必要です。

各校外学習の前に情報をお送りしますのでご了承ください。その際、お子様の校外学習への参加を希望されない場合は、校外学習日の前に、お子様が参加できないことを先生に書面で通知していただく必要があります。各校外学習の個別の許可書は、ご自宅に送付されない場合がありますのでご了承ください。私は、息子/娘が、この学年度中に計画されている、または学校が主催するすべての校外学習に参加することを許可します。安全な体験を保証するために、あらゆる注意が払われることを理解しています。予期せぬ事故が発生した場合、私は学校を一切の責任から免除します。

学校一般規則

1. 生徒は整然と建物に入り、自分の部屋に直接向かいます。
2. 生徒は常に廊下を歩きます。
3. 授業中に廊下を移動する際は、他のクラスの学習の妨げにならないよう会話を控えます。
4. 生徒は大人のスタッフの指示に従います。大人のスタッフ全員 Dr., Mr., Mrs., または Miss. と呼びかけます。
5. 生徒は互いに敬意を持って接し、礼儀正しく接することが求められます。生徒は仲間の生徒に対する脅迫、からかい、悪口、嫌がらせ、けなすなどの行為を慎まなければなりません。6. 生徒は他の生徒を困らせたり、怖がらせたり、傷つけたりするような方法で触れることは控えなければなりません。生徒は殴ったり、パンチしたり、蹴ったり、つかんだり、取っ組み合いをしたり、けんかしたり、つねったり、噛んだり、「ごっこ遊び」をしたりしてはいけません。
7. 生徒は、授業から退出させられるような行動をとる。
必要ではない場合があります。8. 冒瀆的な言葉や暴言は禁止されています。
9. おもちゃ、ノベルティ、電子ゲーム、運動器具、ローラーブレード、スケートボードなどを家から学校に持ち込むことはできません。
10. 上記以外の行為で、お客様の健康と安全を危険にさらす行為。
個々の児童または他の生徒の入場は禁止されています。
11. 授業中は携帯電話を見たり聞いたりしてはいけません。

いじめ、デート暴力、いじめ

いじめとは、誰かに精神的または身体的危害を与える、または与える重大なリスクを生じさせる、学生またはその他の組織への入会行為を行う、または被害者を含む他者にそのような行為を強要することを意味します。

このポリシー全体を通じて、嫌がらせ、脅迫、いじめの代わりに「いじめ」という用語が使用されています。

いじめ、嫌がらせ、脅迫とは、生徒が他の特定の生徒に対して複数回行った意図的な書面、口頭、電子的または物理的な行為です。意図的な行為には、交際関係における暴力も含まれます。この行為は、他の生徒に精神的または身体的危害を与え、他の生徒にとって威圧的、脅迫的または虐待的な教育環境を作り出すほど深刻、持続的または蔓延しています。この行為は、学校の敷地内、スクールバス内、または学校主催の活動では禁止されています。電子行為による嫌がらせ、脅迫、いじめの責任があると判明した生徒は、停学になる場合があります。懲戒手続きは、米国憲法修正第 1 条に基づく生徒の権利を侵害しません。行為がセクシャル ハラスメントである場合、タイトル IX プロセスの解決なしには課すことができない懲戒を課す前に、該当する場合はタイトル IX セクシャル ハラスメント苦情処理プロセスに従います。

いじめ、嫌がらせ、デートDVの被害に遭った個人による許可、同意、またはリスクの引き受けは、このポリシーに含まれる禁止事項を軽減するものではありません。

学区では、健康カリキュラムの中に、7年生から12年生を対象としたデート暴力防止教育の年齢相応の指導を組み込んでいます。この指導には、デート暴力の警告サインや健全な関係の特徴を認識することが含まれます。

コンピューターや電子通信機器、電子手段を介して行われる活動を含む、あらゆる種類の禁止活動は、教育プロセスに反しており、常に禁止されています。学区は、ソーシャル ネットワーキング ウェブサイトやチャット ルームで他の個人と交流することや、ネットいじめの認識と対応など、適切なオンライン行動について未成年者を教育します。

学区の管理者、教師、その他の従業員は、いじめや嫌がらせ行為を奨励、許可、容認、容認してはなりません。学生団体のリーダーを含む学生は、いじめや嫌がらせ行為を計画、奨励、または関与してはなりません。

管理者、教師、その他すべての学区職員は、いじめ、デート暴力などの可能性のある状況、状況、出来事に特に注意を払っています。禁止行為が計画または発見された場合、関係する生徒は発見した学区職員からこの方針に含まれる禁止事項を知らされ、そのような行為を直ちにすべてやめる必要があります。いじめ、いじめ、デート暴力の事件はすべて校長または指定者に直ちに報告され、適切な懲戒処分が下されます。その行為がセクハラであることを職員が実際に知っている場合は、タイトル IX コーディネーターに連絡する必要があります。

教育長/指定者は、法律で許可されている範囲で、報告されたすべての事件の書面による要約を半年ごとに理事会会長に提供し、その要約を学区のウェブサイトに掲載する必要があります。

管理者は、生徒と直接接する学区の従業員とボランティアに学区のいじめといじめに関する方針に関する研修を提供し、毎年11月30日までに統合学校義務報告書を通じてオハイオ州教育省にこの要件の遵守状況を報告します。学区が不遵守を報告した場合、学区長/被指名者は、この不遵守を説明する書面による説明と、正確かつ効率的に行動するための書面による行動計画を30日以内に理事会に提出する必要があります。

問題に対処する。

小学校の従業員には、暴力や薬物乱用の防止、青少年の健全な育成に関する追加研修が提供されます。

学区の職員、生徒、ボランティアは、いじめや嫌がらせの事件を報告することで生じた損害に対して、民事上の免責特権を有します。この方針に従わない管理者、教師、その他の職員、生徒は、懲戒処分の対象となり、州法および連邦法に従って民事および刑事罰の対象となる場合があります。

従業員または学生が、個人に対するいじめや嫌がらせの容疑に関して苦情を申し立てたり、調査、手続き、または聴聞会に協力または参加したことを理由に、その従業員または学生に対して報復することは許可されません。

(理事会方針参照 JFCF)

いじめ、デート暴力、嫌がらせ、脅迫、いじめの禁止は、生徒ハンドブックや、学区内の学校および生徒の行動基準を定める出版物で公表されています。さらに、この方針に関する情報は、従業員ハンドブックや研修資料にも組み込まれています。行為がセクハラへの申し立てを伴う場合、該当する場合は Title IX セクハラ苦情処理プロセスに従います。行為がセクハラである場合、該当する場合は Title IX セクハラ苦情処理プロセスに従い、その後 Title IX プロセスの解決なしには課することができない懲罰を課します。

学校職員の責任と苦情処理手順

学区内のいかなる生徒/学校職員によるいじめ、イジメ行為および/またはデートDVも固く禁じられており、そのような行為は停学および/または退学を含む懲戒処分の対象となる場合があります。いじめ、イジメおよび/またはデートDVとは、生徒または生徒グループが他の生徒/学校職員に対して、いじめ、嫌がらせ、威嚇、負傷、脅迫、嘲笑または屈辱を与える目的で、公然とまたは隠密に電子的に送信された行為を含む、意図的な書面、口頭、図式または身体的な行為を指します。そのような行為は、学校の敷地内またはそのすぐ近く、学校主催の活動、学区の出版物、学区の電子メールアカウントおよび/またはコンピューターを含むがこれらに限定されない学区所有または運営のコミュニケーションツールの使用を通じて、学校が提供する交通機関または公式のスクールバス停では禁止されています。

いじめ、いじめ、デートDVにはさまざまな行為が含まれます。禁止行為に該当する可能性のある行為の例には、以下のものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

1. 身体的暴力および/または攻撃。
2. 言葉や身振りによる脅迫、嘲り、威嚇。
3. 金銭や所有物の強要、損害または盗難。
4. 仲間グループからの排除または噂の流布。
5. 情報通信技術やその他の Web ベース/オンライン サイトの使用を通じた、次のような他者に危害を加える意図を持つ反復的で敵対的な行動 (「ネットいじめ」とも呼ばれる)。
 - A. Web サイト、ソーシャル ネットワーキング サイト、ブログ、または個人のオンライン ジャーナルに中傷を投稿すること。
 - B. 虐待的または脅迫的な電子メール、Web サイトの投稿またはコメント、インスタント メッセージを送信すること。

- C. カメラ付き携帯電話を使用して生徒の恥ずかしい写真やビデオを撮影し、その写真やビデオをオンラインで配布または投稿すること、および
- D. ウェブサイト、ソーシャル ネットワーキング サイト、ブログ、個人のオンライン ジャーナル、電子メール、インスタント メッセージを使用して他の生徒にゴシップや噂を流布すること。

6. インターネットサービスプロバイダーに不適切な発言をしたとして虚偽の報告をし、オンライングループから他者を排除する。

行為がいじめや嫌がらせに該当するかどうかを評価する際には、選択された言葉やとられた行動、そのような行為が他の人の前で行われたか他の人に伝えられたか、加害者が被害者とどのように交流したか、動機が認められたか適切に推測されたかに特に注意が払われます。

教師およびその他の学校職員

上記で定義されるようないじめ、いじめ、および/またはデート暴力行為を目撃した教師およびその他の学校職員は、目撃した出来事を校長または指定担当者に速やかに通知し、目撃した出来事に関する書面による事件報告書を速やかに提出します。

生徒または保護者からいじめ、嫌がらせ、デートDVの疑いがあるとの報告を受けた教師やその他の学校職員は、速やかに校長または指定担当者にその報告を通知します。報告が正式な書面による苦情である場合、その苦情は翌授業日までに校長または指定担当者に転送されます。報告が生徒による非公式の苦情であり、教師やその他の専門職員がそれを受け取った場合、その職員は非公式の苦情の書面による報告書を作成し、翌授業日までに校長または指定担当者に転送します。

苦情

1. 正式な苦情学生および/

またはその保護者は、いじめ、嫌がらせ、脅迫、いじめ、デートDVの疑いに関する報告書を提出することができます。報告書は書面で提出する必要があります。書面による報告書には、関係者、疑わしい行為の回数と場所、嫌がらせ、脅迫、いじめの疑いのある対象、および潜在的な学生またはスタッフの目撃者の名前など、合理的に具体的な内容が記載されていなければなりません。このような報告書は、学校のスタッフまたは管理者に提出することができます。報告書は、速やかに校長または指定担当者に転送され、適切な処置が行われます。

レビューとアクション。

2. 非公式の苦情

生徒、保護者、学校職員は、教師、学校管理者、またはその他の学校職員に口頭で報告することにより、嫌がらせ、脅迫、いじめと思われる行為について非公式の苦情を申し立てることができます。このような非公式の苦情は、いじめ、嫌がらせ、脅迫、いじめの疑いのある行為について、関係者、申し立てられた行為の回数と場所、禁止行為の対象、および潜在的な生徒または職員の目撃者の名前など、合理的に具体的に記述する必要があります。非公式の苦情を受け取った学校職員または管理者は、上記の情報を含め、苦情を速やかに書面で記録します。学校職員および管理者によるこの書面による報告は、校長または指定担当者に速やかに転送され、検討と対応が行われます。

3. 匿名の苦情

上記のように非公式の苦情を申し立てる学生は、苦情を受け取った学校職員および管理者に、自分の名前を秘密にするよう要求することができます。匿名の苦情は検討され、(1)苦情の出所を明かさず、(2)いじめ、いじめ、および/またはデートDV行為を行ったとされる学生の正当な手続きの権利に一致する範囲で、状況に対処するための合理的な措置が講じられます。

4.虚偽の苦情学生は、

嫌がらせ、脅迫、いじめについて故意に虚偽の苦情を申し立てることは禁止されています。嫌がらせ、脅迫、いじめについて故意に虚偽の報告をしたと判断された学生は、あらゆる懲戒処分を受ける可能性があります。

介入戦略

1.教師およびその他の学校職員

非公式および公式の苦情に対処することに加えて、学校関係者は、いじめ、いじめ、および/またはデートDVの問題を他の方法で対処することが奨励されています。生徒との交流。

学校関係者は、クラスでの話し合い、カウンセリング、社会的に適切な行動の強化を通じて、嫌がらせ、いじめ、脅迫、およびいじめについて生徒を教育し、そのような禁止行為をなくす手助けをする機会を見つけることができます。学校関係者は、たとえそのような行為が嫌がらせ、いじめ、脅迫、またはいじめの正式な定義を満たしていなくても、他の生徒/学校関係者を嘲笑、屈辱、または脅迫する目的または効果を持つ生徒の行為を目撃した場合は、直ちに介入する必要があります。

2.管理者の責任

A.調査校長または指定

担当者は、嫌がらせ、いじめ、脅迫、またはいじめの疑いがある公式または非公式の苦情について通知されます。校長または指定担当者の指示の下、そのような苦情はすべて速やかに調査されます。調査が完了すると、調査の報告書が作成されます。報告書には、事実の認定、

いじめ、いじめ、デートDVが確認され、禁止行為が確認された場合は、懲戒処分を含む介入の勧告が報告書に含まれます。適切な場合は、証人の書面による証言が報告書に添付されます。

上記にかかわらず、非公式の苦情を申し立てる学生が匿名を要求した場合、苦情の調査は苦情の匿名性を考慮して適切に制限されます。調査の制限には、さらなる情報の受領および/または苦情を申し立てた学生が匿名報告の条件を撤回することを条件として、苦情の簡単な検討（容疑者との話し合いの有無にかかわらず）に限定される措置が含まれる場合があります。

いじめや嫌がらせが人種、肌の色、国籍、性別、または障害に基づいており、その行為が敵対的な環境を作り出す場合、該当する場合は、適用される差別禁止苦情処理手順が実施されます。

B.非懲戒介入

いじめ、嫌がらせ、デート暴力の行為が確認された場合、早期に特定され、またはそのような行為が確認された場合、懲戒処分を合理的に必要としないときは、生徒は、行為の定義、その禁止事項、および嫌がらせ、いじめ、威嚇、いじめと見なされる可能性のある行為を避ける義務について指導を受けることがあります。

苦情が学生間または学生グループ間の対立から生じた場合、ピア メディエーションが考慮されることがあります。ただし、ピア メディエーションに委ねるケースには特別な注意が必要です。力関係の不均衡により、被害者にとってプロセスが威圧的なものとなり、不適切になる可能性があります。被害者のコミュニケーション能力と自己主張能力は低い可能性があり、過去の威圧による恐怖と将来の威圧に対する恐怖によってさらに低下する可能性があります。

このような場合、被害者には追加のサポートを提供する必要があります。あるいは、ピアメディエーションは懸念に対処するのに不適切とみなされる可能性があります。

C. 懲戒介入嫌がらせ、脅迫、いじめ

行為が確認され、懲戒対応が正当化される場合、学生は懲戒処分の全範囲に及ぶ。懲戒手続きは、アメリカ合衆国憲法修正第1条に基づく学生の権利を侵害するものではない。

州。

ただし、他の方法で検証されていない匿名の苦情は、懲戒処分の根拠にはなりません。

校内および校外の停学処分は、被疑者に停学処分の理由を通知し、状況を説明する機会を与えた後にのみ課されることがあります。

除名処分は、理事会、理事会の委員会、または理事会の方針に従って理事会が指名した公平な聴聞官による聴聞会の後にのみ課せられます。この処分は、嫌がらせ、脅迫、いじめの重大な事件、および/または過去の介入によって禁止行為が排除されなかった場合にのみ適用されます。

犯罪行為の疑いがある場合は法執行機関に報告され、児童虐待の疑いがある場合は定められた期限内に児童保護サービスに報告されます。

加害者の親権者または保護者に報告する

調査の結果、特定の生徒による嫌がらせ、脅迫、いじめ行為が確認された場合、校長または指定担当者は、加害者の親または保護者にその事実を文書で通知します。そのような生徒に対して懲戒処分が科される場合、その通知には懲戒処分の内容が含まれます。

新たな、または追加の嫌がらせ、脅迫、いじめから、また事件の報告後の報復から生徒を保護するための戦略が策定され、実施されます。

被害者とその親または保護者への報告

調査の結果、特定の生徒に対するいじめや嫌がらせ行為が確認された場合、校長または指定者は被害者の親または保護者にその旨を通知します。

このような通知を行う際には、加害者の法定プライバシー権を尊重するよう注意する必要があります。

いじめに関する事柄は、告発者と被告人の身元を含め、可能な限り秘密にされます。有罪判決を受けた被告人に対して懲戒処分が科せられることはありますが、報復は禁止されています。

学校管理者は、嫌がらせ、脅迫、いじめ、デート暴力などの行為を行った生徒の親権者または保護者と、親権者の両方に通知しなければならない。

当該行為が行われた生徒の親または保護者に対し、法律で認められる範囲で、当該事件に関する書面による報告書の閲覧を許可するものとする。

警察と児童保護サービス

このポリシーを通じて苦情を申し立てることに加えて、または代わりに、苦情申立人は、外部機関への苦情の申し立てや私人訴訟の提起など、その他の選択肢を行使することを選択できます。適用される可能性のある州法または慣習法のその他の条項に基づいて苦情申立人が救済を求めることを禁止する規定はありません。

学区は、法執行機関や公立児童福祉サービスも調査している場合でも、学区のポリシーや規則に違反があったかどうかを判断するために、いじめ、いじめ、デート暴力などの事件を調査する必要があります。学区職員は全員、外部機関による調査に協力する必要があります。

(理事会方針JFCF-R参照)

指導とカウンセリングすべての小学校と中学校

の建物にはカウンセラーがいます。カウンセラーは小グループや教室で生徒と協力し、前向きな社会的交流、良い学習習慣、健全な態度などを促します。生徒、保護者、教師の要請があれば、個別カウンセリングを受けることができます。保護者との面談は、お子様の学校のカウンセラー オフィスに電話することで手配できます。

アタマジラミ生

きたシラミが見つかった生徒は、承認されたシラミ治療が完了するまで退学となります。生徒は、次の登校日に保護者と一緒に学校に戻り、看護師または校長が指名した人物による再検査を受ける必要があります。生きたシラミが見つからず、卵の除去に顕著な改善が見られた場合、生徒は学校に再入学できます。

宿題宿題は、練習の

機会を提供し、生徒の学力を高めることを目的としています。保護者が宿題を手伝うことはできますが、教師は学習効果を最大限に高めるために、生徒が宿題を書いて完了することを期待しています。

補習課題は生徒が学校に戻ったときに与えられます。課題の期限は教師が子供に通知します。補習課題が完了して返却されることを確認するのは親/保護者と子供の責任です。

時間生徒は

各校舎に指定された到着時間より前に学校に到着しないでください。指定された時間より前には、学校職員は児童の監督を行いません。

この件に関しては保護者のご協力をお願いいたします。

個人の所持品の識別コート、ジャケット、セーター、帽子、手袋、体

育館シューズ、本、楽器、弁当箱などにラベルを付けてください。紛失物は校長室に持参してください。適切な身元が確認できれば生徒に返却されます。各建物に遺失物置き場があります。

予防接種公立学校の生徒

は全員、法律により予防接種を受けることが義務付けられており、おたふく風邪、ポリオ、風疹、ジフテリア、百日咳、破傷風、およびその他規定されている必須予防接種 (ORC 3313.671)を受けているか、または学校に異議申し立てまたは医師による書面での予防接種が医学的に禁忌であることを証明した声明を提出する必要があります。州教育委員会のガイドラインに従い、

14日間の授業日後に必要な予防接種を受けていない、またはオハイオ州改正法第3313.671条に従わなかった生徒の登校を禁止します。

LEADER IN MEフィン

ドレー市立学校では、独立性とリーダーシップを促進するために「7つの習慣」を活用しています。「Leader in Me」フレームワークは、学校文化全体に非常に効果的な実践を統合する独自のアプローチを提供します。学業に重点を置いた「Leader in Me」は、教育に対する総合的なアプローチを具体化し、学校が成功を測定する方法を再定義します。このアプローチにより、教育者は効果的な実践とツールを活用して次のことを行うことができます。

- すべての生徒にリーダーシップを教える • 生徒のエン

パワーメントの文化を創る • 学業の成果を促進するシステムを調整する。

昼食時間フィンドレー市

立学校給食サービスでは、毎日子どもたちに給食を提供しています。小切手は、フィンドレー市立学校宛にお支払いください。無料/割引価格の給食申請書は、リクエストに応じて入手できます。また、最終フォームでも入手できます。子どもたちは、学校に昼食を持参し、給食を購入した人と一緒にカフェテリアで食べることができます。昼食時間は、学校の監視員によって監視されます。学校職員は、生徒にお金を貸すことはできません。生徒は、昼食時間中は学校に留まらなければならない、保護者が迎えに来ない限り、校外へ出ることはできません。昼食の価格は、ランチメニューを参照してください。

ランチ。

禁煙ポリシー

教育委員会の方針により、建物、車両、屋外観覧席、その他の学校敷地内での喫煙および電子タバコを含むあらゆるタバコ製品の使用は常時禁止されています。

看護師看

看護師は、学校の授業時間のほとんどを勤務しています。看護師は、フィンドレー市立学校の健康方針の実施を支援します。看護師は、各生徒の個別の健康記録も作成します。

屋外での休憩運動と遊びは、

成長期の子供の発達にとって非常に重要です。かかりつけの医師から許可がない限り、すべての子供に屋外での休憩に参加するよう奨励します。

休憩を屋外で行うか屋内で行うかを決める主な要因は気温です。

通常、屋外での休憩は気温（風の冷え込み）が15度以上の場合に行われます。休憩中に子供たちが屋内にいるかどうかは、天候の一般的な状況を考慮して決定されます。各校舎の校長が独自の裁量で最終決定します。天候に応じて、子供に適切な服装をさせてください。寒い天候では、ブーツ、マフラー、帽子、ミトンまたは手袋が必需品です。子供は可能な限り屋外で過ごします。

PBIS/下院法案318

ケーシック知事は2018年8月にHB 318に署名し、2018年11月2日に発効しました。この法律は、おおまかに次のような内容です。

- ポジティブ・コミュニケーションの実施とトレーニングの要件を規定する
生徒のための行動介入およびサポート（PBIS）およびその他の社会的感情的プログラム。

- 幼稚園から3年生までの生徒の停学および退学に関する基準を定める。
- 学校安全訓練および学校環境整備のための助成金を提供する。

フィンドレー市立学校を安全で、歓迎的で、有意義な学習環境として確立するための取り組みの一環として、私たちはポジティブ行動介入およびサポート (PBIS) と呼ばれるフレームワークを導入しました。PBIS は、生徒が学業上の潜在能力を発揮できるように積極的に奨励すると同時に、行動を通じて良い性格を示すことも奨励します。フィンドレー市立学校では、礼儀正しく、責任を持ち、安全であることに重点を置き、学校のあらゆる分野でポジティブな行動を教え、奨励することに重点を置いています。学校に誇りを持つ生徒は、学習機会を最大限に活用でき、クラスメートの学習機会を損なったり妨げたりすることはありません。

PBIS スクールでは、適切な行動の定義、指導、サポートの戦略を含む、学校全体のサポート システムを重視しています。目標は、すべての生徒にとって最良の結果をもたらす、可能な限り最も効果的な学習コミュニティを設計することです。学校全体、教室、個人のサポート システムの作成と維持に重点が置かれています。これまでの学校の一般的な対応 (生徒の不正行為に対する懲戒) とは異なり、PBIS では、行動の期待を指導し、それに従う生徒に報酬を与えるという積極的なアプローチをとっています。成功する PBIS スクールでは、適切な行動が標準となる環境が育まれます。すべての共用エリアと教室には、行動フローチャートと期待を記載したマトリックスが掲示され、指導され、強化されます。

学校の期待は、通学中、学校内、学校敷地内、学校主催のイベント、スクールバス、および理事会が所有または管理していないが理事会が所有または管理する敷地内で発生した活動や事件に関連する敷地内に適用されることを覚えておくことが重要です。場合によっては、スクールバスの規則に違反した生徒はスクールバスの利用を停止されることがあります。

写真のリリース時々、写真

家、地元の新聞社、学校職員が生徒の写真を撮影し、学校のプレスリリース、学校の出版物、学校のソーシャルメディア サイトで使用することがあります。生徒のプログラムやその他の特別なイベントでは、ビデオ撮影が行われることがあります。保護者は、最終フォームを通じて、写真リリースで子供の写真と名前を使用することを拒否する機会があります。

放課後の学校での遊び 放課後、生徒は直ちに校舎と校庭から

退出するよう指示されます。保護者の許可があれば、放課後も校庭で遊ぶことができます。子どもたちには校舎、校庭、校庭で遊んでいる他の人の権利を尊重するよう指導してください。放課後、校庭では学校職員が子どもたちを監督することはありません。

進捗レポート進捗レポートは、

各評価期間の終了後 5 日目の授業日に発行されます。

最終進捗レポートはすべて、最終日に生徒と一緒に自宅に送られます。保護者の方が進捗レポートに関して質問や懸念がある場合は、お子様の教師に連絡してください。必要に応じて面談が手配されることもあります。

休憩ポリシー

屋内での休憩時間中に生徒に安全で一貫した休憩環境を確保するために

休憩時間や校外の遊び場では、理事会が承認した監視員のみが生徒を監督することが生徒にとって最善であると考えています。保護者の方には生徒と一緒に昼食をとることを推奨していますが、生徒が休憩時間に解散した後は、外や教室に生徒と一緒に出かけないでください。

記録

累積記録（永久的記録と呼ばれることもあります）は、幼稚園から小学 5 年生までの各生徒について、学校事務所で電子的に保管されます。生徒の学業の進捗状況、健康記録、テストの点数、出席状況などの情報は、累積記録の一部です。連邦権利およびプライバシー法では、これらの記録の資料は機密であると規定されています。この情報は、親または保護者の書面による許可がある場合にのみ、または生徒が 18 歳以上の場合は書面による許可がある場合にのみ公開できます。この法律では、親または保護者が希望する場合は、これらの記録を閲覧する権利が付与されなければならないとも規定されています。資格のある代理人が、親または保護者が記録を解釈できるようサポートします。

安全に関する注意事項

保護者の方は、お子様が通学する際に安全で定期的な通学路を確保することをお勧めします。歩道を歩き、横断歩道でのみ道路を渡る必要があることを強調してください。生徒には、一人で歩くのではなく友達と一緒に歩くように勧めてください。放課後にお子様を迎えに行く場合は、車の二重駐車は避け、バス専用駐車場（黄色に塗られた場所または道路標識）を守ってください。生徒と教職員の安全のため、指定された送迎手順に従う必要があります。

すべての学校では、法律で定められた通り、火災、竜巻、安全に関する訓練を実施します。

学生へのスナックの販売

2010 年の「健康で飢えない子ども法」は、USDA に、学校の募金活動で販売される食品を含め、学校で生徒に販売されるすべての食品と飲料の栄養基準を確立するよう指示しました。新しい「学校でのスマートスナック」の栄養基準は、全粒穀物、果物、野菜、脂肪分の少ないタンパク質、低脂肪乳製品など、私たちが奨励すべき食品と飲料を生徒にもっと提供し、砂糖、脂肪、塩分が多すぎる食品を制限することで、学校が健康的な選択を簡単に行えるようにするのに役立ちます。

スマートスナック基準の適用範囲スマートスナック

基準は、授業時間中に適用されます。授業時間は、授業時間終了前の深夜から授業終了 30 分後までと定義されます。このようなプログラムが授業時間中に学校で実施される場合、または放課後のスナックまたは食事が授業終了から 30 分以内に提供される場合、その時点で生徒に販売できるその他の食品は、スマートスナックの要件に準拠している必要があります。

学生行動規範私たちは、効果的な学習に必

要な良い行動の雰囲気を作り出すため、学生の積極的な選択を奨励しています。私たちの責任は、ここで学ぶために来ている大多数の学生に対してあります。学生が誤った選択をすることはめったにありませんが、誤った選択をした場合は、その決定の結果について学生に適切な警告を与える必要があります。積極的な学習体験ができる教育環境を確保することは、私たちの義務であり責任です。学生行動規範は、この目的を果たすために記載されています。

以下の行動規則は、生徒が学校の敷地内にいるとき、学校主催の活動に参加しているとき、またはその他学校関係者の権限の対象となるときはいつでも適用されます。これらの規則は、不正行為が学区が所有または管理する施設で発生した活動または事件に関連している場合、または不正行為が学区の職員または従業員、あるいは学区の職員または従業員の施設に向けられている場合にも、学校敷地外に適用されます。

生徒が学校の敷地内または学校の管轄下にある間に、以下の行動規範の1つ以上に違反したり、行動規範に違反している生徒を援助、幫助、教唆したりすると、口頭または書面による警告または叱責、スクールカウンセラーへの紹介、保護者との面談または面談、社会奉仕活動、登校前、昼食時または放課後の居残り、校内課題、停学、緊急退学、および/または退学、または適切な当局への訴追の紹介を含む、管理者が適切とみなすその他の代替措置を含む懲戒処分を受ける場合があります。

教育長、校長、または副校長は、行動規範に違反した生徒を最長 10 日間停学にすることができます。教育長は最長 80 日間、場合によっては 1 年間、生徒を学校から退学にすることができます。停学または退学処分を受けた生徒は、学校の敷地内に入ること、学校の活動やコンテストに参加すること、学校が管理する活動や敷地内にいることはできません。

管理者は、災害日や不測の事態が発生した場合、独自の裁量で ALC のスケジュールを変更したり、OSS のスケジュールを変更したりする権利を有します。

課外活動や学校行事（リーダーシップ チーム、校内行事など）は権利ではなく特権です。行動規範に違反すると、他の学校規律に加えてこれらの特権も失われる可能性があります。

この規約の遵守は必須です。

行動規範

1. 学業上の不正行為学生は、不正行

為、コンピューターの不正アクセスや使用、著作権侵害、盗作などの学業上の不正行為を行ってはなりません。適切な文書化なし、他者または団体 (ChatGPT を含むがこれに限定されない人工知能) のアイデアや言葉を使用することは、盗作と呼ばれる文学的窃盗の一種です。このポリシーに違反した学生は、問題の作業に対して 0 点の評価を受ける可能性があり、別の課題を完了することが求められ、さらにその他の懲戒処分が科される可能性があります。

2. 改ざんまたは偽造されたパス/文書

生徒は全員、要請があった場合、速やかに学校当局に正確な身元を明かさなければなりません。生徒は文書を改ざん、偽造、または不正使用してはなりません。生徒は、口頭または書面を問わず、他人の名前を偽造したり、時間、日付、成績、住所、その他の情報を偽造してはなりません。

3. いじめと新入生への嫌がらせ生

徒は、生徒や他の人物をいじめたり、嫌がらせしたりしてはなりません。新入生への嫌がらせとは、生徒や他の組織への入会の儀式として、誰かに精神的または身体的危害を与える、または与える重大なリスクを生じさせる行為を行うこと、または被害者を含む他人にそのような行為を強要することを意味します。いじめ、嫌がらせ、脅迫とは、生徒が他の特定の生徒に対して複数回行った意図的な書面、口頭、電子的または物理的な行為です。意図的な行為には、交際関係における暴力も含まれます。その行為は、他の生徒に精神的または身体的危害を与え、その生徒にとって威圧的、脅迫的または虐待的な教育環境を作り出すほど深刻、持続的または蔓延しています。この行為は、学校の敷地内、スクールバス内、または学校主催の活動では禁止されています。写真を含む学校の出版物は著作権で保護されており、書面による許可なしの写真の使用は固く禁じられています。

ネットいじめを含むいじめ行為に関与した生徒は、停学処分を受ける可能性があります。いじめの報告後に嫌がらせや報復を恐れる生徒は、アシスタントに相談してください。

校長またはスクールカウンセラーに報告してください。生徒はいじめの事件を学校に報告することができます。従業員に連絡し、匿名で行うことができます。学生は419-429-8994に電話することもできます。いじめの報告を残す。生徒はFHSのウェブページにアクセスして、管理者のメールに直接送信されるレポート。虚偽のレポートをした学生はいじめの罪に問われ、停学処分を受けることもあります。

4.私有財産への損害

学生は私有財産に損害を与えたり、煽動したり、損害を与えようとしたりしてはならない。
(学校敷地内外、または学校職員の私有財産を含む)
学校活動)損傷した財産の交換または修理には料金がかかる場合があります
学校での懲罰に加えて。

5.学校施設の損害

生徒は学校の財産に損害を与えたり、煽動したり、損害を与えようとしたりしてはならない。
学校での処 建物、敷地、設備、または資材。
分に加え、損傷した財産の交換や修理も含まれます。

6.危険な活動、武器、器具

学生は、脅迫、危険、または危険にさらす可能性のある活動に従事してはならない。
生徒、教師、その他の学校の関係者の健康や安全を脅かしたり危険にさらしたりする
学生はいかなる物品も所有、取り扱い、譲渡、隠匿してはならない。
暴力の武器または道具とみなされる可能性のあるもの。類似の武器
実際の武器として扱われます。

銃器の定義は、(スターターガンを含む)以下のいずれかを目的として設計された、または
そのよ 爆発物の作用によって容易に発射体を発射するように変換される。
うな武器のフレームまたはレシーバー、銃器のマフラーまたは銃器のサイレンサー
または破壊装置 (爆発性、焼夷性または有毒ガ 18 USCAセクション921)には、
ス、爆弾、手榴弾、4オンス以上の推進剤を搭載したロケット、爆発性または

1/4オンス以上の焼夷弾、地雷またはこれに類似する装置
上記の器具の1つ。ナイフとは、鋭い刃を持つ切断器具と定義されます。
ブレード それは有能である 重大な身体的傷害を引き起こす可能性がある。

生徒は、学校敷地内、学校または公共施設内で物品を所持することを禁止されています。
次の両方に該当する場合、校舎内、学校行事中、または学校車両内で使用することはできません。

1. 当該物体が銃器であるか否かに関わらず、銃器と区別がつかない場合
発射可能なもの。
2. その人がその物を所有していること、そしてそれが
銃器、またはその物体を展示または振り回して、それが
銃器。

州法の定義および本ポリシーの目的上、「

「銃器と区別がつかない」とは、銃器と区別がつかないように作られたり、構築されたり、改造された物体を意味する。
銃器に関する専門的な訓練を受けていない常識的な人にとって、その物体は
銃器のようです。

- このポリシーは、上記のいずれかを学校敷地内に持ち込む場合、
学校の車両、または学校間の競技会、課外活動
イベント、または地区が主催するその他のプログラムや活動。
- こうした行為の例としては、火災警報器の改ざん、火災報知機の故障、
消火器、AED機器、SafeDefendボックス、安全の侵害、

セキュリティ対策、またはその他の連邦法。 地方自治体または

7. 学校の妨害生徒は、行動、言葉、身

振り、画像、テクノロジー、暴力、力、強制、脅迫、嫌がらせ、不服従、または度重なる非協力により、すべてのカリキュラム、カリキュラム内活動、運動、および課外活動を含む教育プロセスを妨害または阻害してはなりません。生徒は教室などの建物内の学習エリアにのみ入室が許可され、正当な学校関連活動に参加していない限り、授業終了時には速やかに学校を離れることが求められます。学校の妨害には、理事会、教育長、または校長が随時定めるその他の規則に従わないことも含まれます。

8. 服装、外見

フィンドレー高校は、公平な教育へのアクセスと、生徒の個性を安全かつ健全に表現することをサポートしています。生徒は、生徒の健康、福祉、安全を確保し、生徒の敬意、前向きさ、非暴力的なイメージを高めるような服装をしなければなりません。したがって、高校での学習環境と安全条件を最大限に高めるために、次の期待に従う必要があります。衣服やアクセサリは、麻薬、アルコール、タバコ、セックス、ギャング、冒涇、暴力をほめかしたり、奨励したり、民族、文化、宗教、人種、または法的に保護されているグループに不快感を与えるものであってはなりません。

- 衣服やアクセサリは、安全上の懸念を生じないものでなければなりません（武器として使用できるものを含む）。
 - 衣服やアクセサリは、胸、腹部、背中、臀部を

覆う必要があります。

タンクトップやカットオフシャツは、すべての下着、背中、胸、脇が覆われている場合にのみ許可されます。過度に肌を露出する衣類は、学校環境にふさわしくないとみなされます。靴/サンダルは常に着用する必要があります。

- 帽子やその他の頭飾りは（特定の生徒の宗教で必要な場合を除いて）、顔がはっきりと見え、他の人の視線を妨げないものでなければなりません。学校管理者から特別な許可がない限り、サングラスやフードの着用は許可されません。

- 装飾用の衣服として、スパイク付きのブレスレットやネックレス、または長いチェーン。フェイスペイント、猫耳、眼帯、マスクなどのコスチュームは、管理者の許可がない限り許可されません。重大な傷害を引き起こす合理的なリスクを生じさせる衣服やアクセサリ。

教育プロセスへの干渉（衣装、フェイスペイントなどを含む）は許可されません。特定の特別なイベントについては、学校管理者によって例外が許可される場合があります。

- 生徒は不適切な衣服を隠したり、着替えたり、脱いだり、または帰宅して適切な衣服に着替えるよう求められる場合があります。服装規定に違反すると、学校で懲戒処分を受けたり、その日の残りの授業時間中は ISAP に所属したりすることがあります。教科書を入れるためのハンドバッグを含む、ブックバッグ、ブリー

フケース、ダッフルバッグ、ラップトップ/コンピューターバッグ、その他の類似のアイテムは、建物に出入りするときは教室に持ち込んだり、廊下で持ち運んだりしないでください。

- 管理者の承認がない限り、スピリットウィーク/ドレスアップデー中はすべての服装規定を遵守する必要があります。管理者が不適切と判断したその他の服装。

9.懲戒処分の不履行学生は懲戒処分を履行しないことはできない。

10.虚偽の報告学生は、学校

職員による調査や懲戒処分につながるような虚偽の陳述、虚偽の告発、虚偽の情報の提供を行ってはなりません。学生は、法執行機関の介入につながる可能性のある、または実際に介入する可能性のある虚偽の報告や虚偽の申し立てを行ってはなりません。

11.恐ろしい、品位を傷つける、または不名誉な行為/無礼な振る舞い

生徒は、書面、口頭、視覚、身振り、および/または技術的な手段によって、教師、生徒、またはその他の人物を怖がらせたり、侮辱したり、または怖がらせたり、侮辱したり、侮辱したりする可能性のある行為に従事してはなりません。生徒は、生徒、学校職員、および学校訪問者に対して無礼な態度をとってはなりません。

12.ギャング活動の定義:

「ギャング」とは、違法行為の実行、ギャングの目に見える側面の誇示や伝達、または規律規則に違反する行為を目的とする2人以上のグループです。安全で暴力のない学校を保証するために、Findlay High School ではギャングおよびギャング活動は次のように禁止されています。

- ギャングのメンバーであること、ギャングと関係があること、またはギャングと関係があることを示唆する衣服、宝石、エンブレム、バッジ、シンボル、サイン、その他のアイテムを着用、所持、使用、配布、展示、販売すること。• ジェスチャーや口調を含む、言語的または非言語的な行為に従事すること。
 - 握手、ギャングのメンバーであることのデモンストレーション、ギャングとのつながりを示す行為。• ギャングやギャング活動の利益を増進する行為に従事すること。
- これには以下が含まれますが、これらに限定されるものではありません。 ■ 「保護」のために誰かに金銭を要求したり、明示的または暗黙的に他の違法または禁止行為で誰かを脅迫すること。 ■ 学校の敷地内または学校に持ち込んだ私有財産に、ギャング関連の落書き、メッセージ、シンボル、またはサインを描いたり、書いたり、入れ墨したり、その他の方法で刻み込んだりする
- こと。 ■ 暴力、恐喝、その他の違法行為、または学校の方針に違反すること。 ■ 他の生徒に対する身体的暴力を行うよう誰かに要求すること。
- 人。

13.不服従/指示、方針、規則などの違反

生徒は、学校職員による合理的な指示を無視したり、従うことを拒否したりしてはなりません。生徒は、教師、代用教師、教師補助員、校長、その他の教育実習生、認可された学校職員の指示、方針、規則などを、そのような学校職員の監督下にある期間中はいつでも遵守しなければなりません。

14.麻薬、アルコール飲料、カフェイン錠剤、興奮剤、市販薬または処方薬、その他の錠剤/物質学生は、ステロイド、麻薬、幻覚剤、アンフェタミン、カフェイン錠剤、

伝達する、隠す、購入する、購入しようとする、使用する、または使用させる

バルビツール酸塩、マリファナ（電子タバコ、液体、食用を含む）、アルコール飲料またはアルコール代替品として宣伝されている飲料、吸入剤、麻薬器具、その他の錠剤/物質、またはその他の精神を変えるもの物質

校舎内、校内、昼食時、学校または学校主催の活動に参加中。これには処方薬や市販薬の所持、販売、配布が含まれます。生徒は

使用、偽造または類似薬物の所持、配布、配布の試み、販売、購入、購入の試み、または包装。また、学校の敷地内に空のアルコール容器を持ち込むことも禁止されています。

偽造規制物質は次のように定義されます。

- 所有者の許可なく商標、商号、識別マークが表示されている、または容器やラベルに表示されている薬物。•規制薬物として表示されている物質。•規制薬物以外の物質で、合理的な人が

規制物質であると信じている。

このポリシーに違反した場合の結果は、JFCH/JFCI 教育委員会ポリシーおよびその他の該当する懲戒ポリシーに従います。

~~市販薬または処方薬 学生は、市販薬または処方薬を所持、使用、譲~~

~~渡、販売、または隠匿してはなりません。~~

生徒が学校で処方薬を服用する必要がある場合、保護者は医師の署名入りの医療許可書を提出する必要があります。薬は本部に登録されます。

学校の

15.許可されたエリア外/不登校/過度の欠席/遅刻 許可されたエリア外/不登校 生徒は、授業中は常に

指定されたエリアにいることが求められます。許可なく授業を抜け出すことを含め、授業時間中のいかなる時間でも、故意に学校や授業を欠席すること。指定された下校時間前に学校職員の監視下に入った生徒は、正式な許可なく、学校の敷地または指定された教育施設を離れることはできません。

無断欠席/過度の欠席/遅刻については、理事会が採択した方針が適用されます。

16.公共の場での愛情表現生徒は、学校の敷

地内、学校の管理下にある間、または学校関連の活動中に、身体的な愛情表現や不適切な身体接触を行ってはなりません。

17.セクハラ・デートDV

このハンドブックの最後に記載されている理事会ポリシー ACAA および規制 ACAA-R を参照してください。

学生は、学生や他の人とデートDVやセクスティングをしてはいけません。デートDVや関係性虐待とは、相手をコントロールするために、身体的、性的、言葉による、または感情的な虐待を行ったり脅したりする行動パターンです。

デートの相手。

18.テクノロジーコンピ

ユータ テクノロジーとネットワーク ガイドラインハンドブックおよび/

または理事会のポリシー EDE および規制 EDE-R に記載されているガイドラインに従わない学生は、ラボで作業を完了したり、アカウントにアクセスしたり、インターネットを使用したりするための特権を失います。また、追加の懲戒処分または法的措置の対象となる場合もあります。違反が複数回あると、学期、学年、または高校在学期間中のコンピュータの使用が禁止される可能性があります。すべてのコンピュータは、いつでも、どのような理由でもデータ検索の対象となります。学校のコンピュータには、いかなる場合もプライバシーの権利はありません。インターネット フィルターを回避しようとしていることが確認された学生は、FCS テクノロジー契約に従って懲戒処分の対象となり、初犯の場合、コンピュータ ネットワークおよびインターネットへのアクセスが停止され、個人用テクノロジー デバイスを学校に持ち込むことが禁止される可能性があります。

携帯電話/個人用通信機器 学校当局は、技術の進歩により携帯電話

を持つ生徒の数が増加していることを認識しています。学問の完全性と学習コミュニティの安全を守るために、学校での携帯電話の使用に一定の制限を設ける必要があります。教室では、特定の教育用途で教師が許可しない限り、携帯電話の使用は禁止されています。廊下/カフェテリア/非学業エリアでの携帯電話の使用は、校長の裁量に委ねられています。携帯電話は、生徒の許容される使用およびインターネット安全ポリシー (EDE および EDE-R) に従って使用する必要があります。このポリシーに違反すると、懲戒処分が下されるだけでなく、携帯電話が没収される可能性があります。携帯電話が没収された場合、携帯電話の内容に問題がなければ、生徒および/または保護者は、その日の終わりに適切な校長から携帯電話を回収できます。予定された授業日に学校に携帯電話を持っていくことは特権であり、権利ではありません。生徒が学校に持参する携帯電話の内容に関して、生徒にプライバシーを期待する正当な権利はありません。ただし、携帯電話の検索は、定められた捜索方針に従ってのみ行われます。学校および学校職員は、携帯電話の紛失または盗難について責任を負いません。生徒が教室での期待に従わなかった場合、携帯電話は教師によって没収され、事務室に持ち込まれることがあります。

これはオハイオ州議会法案250条3313.753の最近の改正に沿ったものである。

セク스팅とは、電子データ転送またはその他の方法によるヌード、わいせつ、ポルノ、卑猥な画像、またはその他の違法な写真画像を所有、撮影、配布、転送、共有することと定義され、州法および/または連邦法の下で犯罪を構成する可能性があり、適切な法執行機関に報告される場合があります。学校の敷地内、スクールバス、学校主催のイベントで発生する、または学校の学習環境を妨げるデートDVまたはセク스팅は禁止されています。

19.窃盗

生徒は、学区の財産や備品、または他の生徒、教師、訪問者、従業員の財産を持ち去ったり、持ち去ろうとしたりしてはならない。

学区の。

20.脅迫

生徒は、脅迫時に学校の建物または学校活動が行われている敷地に対していかなる脅迫も行ってはなりません。脅迫には、パニックを引き起こしたり、精神的、身体的、感情的な危害を引き起こす可能性のある爆破脅迫や暴力脅迫が含まれますが、これらに限定されません。

21.脅迫/威嚇

他人に身体的な危害を受けるかもしれない信じ込ませる（脅迫）。
学生は、いかなる手段によっても、学生、教師、その他の学校職員または訪問者に対して身体的暴力で脅迫したり、強要したりしてはなりません。学生は、他の学生または人物に対して、いかなる手段によっても、学生、教師、その他の学校職員または訪問者に対して身体的暴力で脅迫したり、強要したりするよう促してはなりません。脅迫には、他の学生または人物から金銭またはその他の貴重品をゆすったりするために使用される脅迫が含まれますが、これに限定されません。学生は、脅迫、嫌がらせ、威嚇、または人、財産、または評判への傷害によって、学生、学校職員または他の人に対して貴重品を手放すよう強要したり、強要しようとしたりしてはなりません。

22.タバコ/ニコチン

生徒は、学区の管理下にあるエリア内、または学区が監督する活動において、タバコ/ニコチンを含む物質または装置、あるいは器具（電子タバコ、電子液体、ポーチ、パイプ装置を含むがこれらに限定されない）を展示、所持、販売、販売済み、存在、伝達、伝達済み、隠蔽、購入、購入済み、使用、または使用させてはなりません。

「見張り役」を務めたり、喫煙者を幫助したりした学生は、禁煙規則に違反した場合と同様に懲戒処分を受けることになります。

23.交通

学校

すべての生徒はバス運転手から与えられる合理的な指示に従い、基本的な安全規則を遵守しなければなりません。

学生

不注意または無謀な運転: 学校の敷地内、または学校行事に関連して、人や財産を危険にさらすような運転。これには、自動車、自転車、モペット、電動スクーター、スクーター、スケートボードが含まれますが、これらに限定されません。

24.許可されていない身体接触学校の敷地内また

は学校の管轄下の行事に参加中に、生徒、学校職員、またはその他の人物に物理的に触れたり、叩いたりする行為（喧嘩を含む）は、暴力禁止方針違反者と同様に懲戒されることがあります。以下のいずれかのレベルに関与した生徒は、停学および/または退学を勧告される場合があります。

- レベル I - 学校の管轄下にある間、許可されていない接触（人対人または物による）、押す、突く、お互いまたは他の人への拘束。
- レベル II - 学校の管轄下にある間、2人以上の生徒が身体的危害（喧嘩）を引き起こしたり、お互いまたは他の人に身体的危害を引き起こす恐れのある行動をとったりしてはなりません。

- レベル III - 生徒は、学校の管轄下にある間、危害や身体的傷害を与える意図の有無にかかわらず、他の人（学校職員、他の生徒）を攻撃しようとしたり故意に攻撃したり、身体的傷害を引き起こす恐れのある行動をとったりしてはなりません。

25. 不規則な行動- 不規則な行動には、学校職員からの合理的な要求に従うことを拒否すること、または教室やその他の学校の混乱を引き起こすその他の行動が含まれますが、これらに限定されません。

26. わいせつまたは差別的な言葉、素材、行動、ジェスチャーの使用

生徒は、卑猥な、下品な、冒とく的な、または差別的な言葉を使用したり、不適切なジェスチャーや行動をしたり、下品な資料を所持したりしてはなりません。注: 差別的な言葉とは、人種、肌の色、国籍、市民権の状態、経済的状态、婚姻状況、妊娠、性別（性的指向やトランスジェンダーのアイデンティティを含む）、障害、年齢、宗教、祖先、遺伝情報など、1 つ以上の特徴に基づいて個人またはグループを軽蔑する口頭または書面によるコメント、ジョーク、中傷を指します。身体的傷害、脅迫、または嫌がらせを誘発および誘発する目的で、学校の秩序と安全を脅かし、学校の学習環境に悪影響を及ぼします。その他の民族的脅迫には、喧嘩、破壊行為、脅迫などがあり、行動規範の 1 つ以上のセクションに基づいて処罰される可能性があります。

27. 冒流的/卑猥な言葉/罵り言葉の使用冒流的/卑猥な言葉は学校敷地内で

は許容されません。卑猥または中傷的な内容を含む、または教育プロセスを妨害し、他人が考えや意見を表明または受け取る権利を侵害する恐れのある内容の印刷、配布、または閲覧は禁止されています。

早期警告裁判前会議

生徒の行動規範に継続的に違反する生徒に対する紹介プロセスでは、教師と学校職員がそのような行動を示す生徒を特定し、生徒と家族にサポートと介入を提供し、必要に応じて追加のサービスを紹介します。

生徒と家族が何度も試みたにもかかわらず推奨されたサービスを受けられなかった場合、または行動が学校の安全に重大なリスクをもたらす場合、学校は早期警告事前裁判前会議を開始することがあります。行動が非常に懸念され、生徒の性格に合わない判断された場合、個別の状況により早期の会議が必要になる場合があります。早期警告事前裁判前会議の最終的な目標は、生徒と保護者が行動上の課題に対処できるように支援し、前向きで安全な学校環境を促進し、行動の原因となる根本的な問題に対処するために必要な介入とサービスを提供することです。これは、ORC 2919.24、2151.02 B に記載されているガイドラインに従います。

免責事項

このハンドブックに掲載されている校則は、連邦、州、または地方の規制を継続的に遵守するために必要な変更の対象となり、学校の日常的な運営に必要な見直しや変更の対象となります。すべての行動規則をガイドブックに書き込んで挿入できるわけではありませんが、生徒には合理的な規則に従い、他人の権利を侵害しないことを期待しています。このハンドブックの規定は、学校、学校の敷地内、学校主催の活動、または学校職員の権限の下で有効です。これらの規則は、不正行為が所有地、学校敷地内、または学校外で発生した活動や事件に関係する場合、学校敷地外でも適用されます。

学区が所有または管理する財産の視界内。これらの規則は、不正行為が学区の職員または従業員、あるいは学区の職員または従業員の財産に向けられた場合、学校敷地外でも適用されます。

学生ディレクトリの公開学区は、学生の教育記録

に含まれる以下の個人情報を「ディレクトリ情報」として指定しています。

1. 生徒の名前
 2. 公式に認められた活動やスポーツへの参加
 3. 生徒の功績に対する賞や栄誉
 4. 卒業日
- 上記の情報は、営利目的の計画や活動の要請の場合、または保護者/資格の

ある生徒が各学年の 10 月 1 日ま

でに学校に書面で、事前の書面による同意なしに当該情報の一部または全部を開示しないよう通知した場合、または開示が法律で禁止されている場合を除き、事前の書面による同意なしに開示されます。

親/保護者は、最終フォームを通じて、写真のリリースにおいて子供の写真と名前を使用することに同意しないことを選択できます。

援助を求める学生

教師、管理者、カウンセラー、その他の学校職員は、何らかの懸念を抱いている生徒を支援するためにここにいます。学校に関して懸念がある場合は、教師または他の職員にご相談ください。

テクノロジー/ 1:1デバイス

1:1 デバイスを使用する生徒に対するルールと期待については、Findlay City Schools の生徒と保護者向けの 1:1 デバイス ハンドブックを参照してください。また、Findlay City School District のコンピュータ ネットワークの生徒の許容される使用とインターネットの安全性に関する教育委員会のポリシー EDE と EDE-R を確認してください。

生徒による電話の使用学校事務所の電話

は、授業時間中に公務のために予約されており、個人的な通話には使用しないでください。緊急の電話のみが生徒宛てにかけられ、生徒が電話に出るように呼び出されることはありません。学校の授業時間中に生徒全員に重要なメッセージを配信します。生徒は学校に来る前に必要な個人的な手配（クラブ、スカウトの会合など）を済ませておく必要があります。

校舎の使用校舎は、スカウト組織、キャン

プファイヤー、YMCA 活動、4-H など、さまざまな青少年グループが使用できます。いずれの場合も、放課後のグループは資格のある成人指導者の監督下に置かれる必要があります。これらの行事やその他の行事は、学校の Web サイトから施設許可書に記入し、賠償責任保険の書類を提出することでスケジュールできます。

休暇ポリシー

休暇中に生徒を学校から連れ出すことはお勧めしません。ただし、保護者がそうしなければならないと判断した場合は、できるだけ早く教師とオフィスに通知する必要があります。

教師は学校に戻った後、生徒に課題を渡します。補習課題が完了していることを確認するのは保護者の責任です。生徒には、欠席した授業時間に相当する期間が与えられ、課題を完了します。

学校への訪問者

保護者の方は、学校を頻繁に訪問し、お子様の教育に積極的に参加することをお勧めします。教室訪問は、校長または教師を通じて手配できます。保護者の方は、訪問中に教師と面談することは避け、双方が納得できる時間に面談を予定してください。

生徒の保護のため、生徒以外の方は建物に入る際に必ず事務室に報告してください。教室に直接行かないでください。徘徊および不法侵入の法律が施行されます。

お子様に伝言、菓、宿題、昼食、お金、備品などを渡す必要がある場合は、オフィスにお越しください。授業を中断すると貴重な授業時間が妨げられます。また、お子様や先生を待っている間に廊下に立っていると、学習環境が乱れる可能性があります。他校の生徒がお子様と一緒に授業を訪問することは許可されていません。

退学 生徒を退学させる必要が生じた場合は、事

務局に通知してください。教科書を返却し、金銭的義務を支払い、各コースの現在の成績を受け取った後、保護者が退学許可書に署名した後、必要な生徒記録が受け入れ先の学校に送られます。

暴力や妨害行為に対するゼロトレランスポリシー

公立学校の目的は、安全な環境で生徒を教育することです。この目的は、暴力的、破壊的、または不適切な行動によって損なわれません。オハイオ州改正法第 3313.534 条に従い、学習プロセスを促進するために、理事会はゼロ トレランス ポリシーを採用し、学区の生徒によるすべての暴力的、破壊的、またはその他の不適切な行動を明示的に禁止します。さらに、理事会は、暴力的、破壊的、または不適切な行動を排除するために、予防から介入までさまざまな戦略を確立しました。

この方針に基づき、生徒はあらゆる暴力的、破壊的、または不適切な行動を控えなければなりません。生徒は学区の生徒行動方針を含むすべての学校の規則と規制を遵守しなければなりません。同様に、生徒はすべての教師、管理者、およびその他の学校職員の指示に従わなければなりません。この方針は、学区の生徒行動方針が生徒に適用されるのと同じ時間と場所で生徒に適用されます。

この方針に従わない生徒は、違反の重大さ、生徒の過去の記録、他人の幸福や財産に対する脅威、および特定のケースで悪化または酌量される可能性のあるその他の状況など、特定の状況に応じて、警告、停学、退学、永久除名など、適切な懲戒処分を受けることになります。委員会は、オハイオ州またはその政治的区分の法律に違反する行為を犯した生徒の訴追に積極的に協力します。生徒は、この方針の違反が疑われる場合は、学校長に報告することが求められます。

学区の学生行動方針には、この方針に基づいて学生が懲戒処分を受ける可能性がある行為の種類の一部（すべてではありません）が記載されています。